



月収 1万8000円 みんなで山に暮らす

新しい生き方を模索する人が多い今、山奥ニートの彼らの生き方は、わたしたちの凝り固まった価値観をほぐしてくれます。

地球とあなたにやさしい暮らし方

ははラボ
通信

2021年5月27日 第9号

今月のテーマ

山奥ニート

脱成長の生き方



和歌山の山奥で 廃校になった校舎に
全国から ^{ニートや} ひきこもりの若者が集まり、
共同生活をしている。月1.8万で
ネット付きの居住スペースと食事代
をまかなっている。



どちらでも
いいよ。

働いても、働かなくても
短い滞在でも、永住でも
どちらでもいいよってスタンス。
(ニート支援としては珍しい)

かちかん
1.



一人で生きるって
大変だから。

一人で生きるって、
強い人でないとできない。弱い人は
弱い者同士でつながって
生きていくほうがいい。

かちかん
2.

山奥に
都会を
つくりたい

かちかん
3.



生活費の安さが山の魅力。そこに
遊ぶ場所や、おもしろい人に出会えるといった
都会のいい所も持ってきたいな～
と考えてる

★メンバー募集中★

「母なる地球を守ろう研究所」

略して「ははラボ」は、現在 理事の
ひろし、もりぞう、まあむの3人で
で活動中! まずはfacebookを
のぞいてみてね。



地球環境を
こわす生き方より
よっぽど
いいじゃない!

所長
ひろし



今のライフから
降りるのがこわい
人にとっては
目からウロコでは?

研究員
もりぞう

ははラボの
感想

応援してるよ!!



お金を
使わなくても
楽しむ方法って
いっぱいある
よね。

研究員
まあむ

日本など先進国は経済の大幅縮小を

長谷川浩（理事長）

菅総理大臣は昨年カーボンニュートラル（脱炭素）を表明しました。ヨーロッパやアメリカなど先進国が脱炭素を目指す世界潮流に抗うことはもはやできないと判断したためです。それほど地球の環境問題は深刻で、気候は崩壊しつつあり、このままだと人類全体の生存を脅かすほどの事態です（[メルマガ2号](#)）。人類全体が日本人と同じレベルの生活を送ったら地球は2.9個必要、アメリカ人と同じ生活なら地球は5個以上必要です^{注1}。地球環境問題がこれほど深刻な事態に至ったのは、我々人類が一個しかないかけがえのない母なる地球を壊して経済成長しているからで、原因は我々自身なのです。

世界において収入レベル別にみた CO₂ 排出量の比較^{注2}

収入レベル	1990-2015 年の総 CO ₂ 排出量 (比率)	2015 年の一人当たり年間 CO ₂ 排出量(トン CO ₂)
上位 0.1%	4%	217
上位 1%	15%	74
上位 10%	52%	24
中位 40%	41%	5
下位 50%	7%	0.7

1990-2015 年の総 CO₂ 排出量は 7220 億トン

2015 年の CO₂ 排出量は 355 億トン

CO₂ 排出についてももう少し詳しくみてみましょう。1990-2015 年の総 CO₂ 排出量 7220 億トンにおいて、経済的に裕福な上位 10%が CO₂ 排出量の 52%と半分以上を占めるのに対して、収入レベルの下位 50%はわずか 7%しか占めません。上位 1%だけで 1990-2015 年の総 CO₂ 排出量の 15%、上位 0.1%に至っては 4%も排出しています。CO₂ の排出は石炭、石油、天然ガスといった化石燃料の燃焼が最大の発生源です。CO₂ を撒き散らして地球を暑くしてきたのは経済的に裕福な層が便利と贅沢の極致の生活を送っている結果なのです。別の言い方をすれば、お金を儲けている人こそが地球を壊している元凶なのです。

欧米や日本のカーボンニュートラル宣言は、便利と贅沢の極致の生活を変えないで、CO₂ など温室効果ガスの排出だけを実質ゼロにしようとするものです。先日アメリカ・バイデン大統領が主導した気候リーダーズサミットでは、中国やインドは具体的な数値目標の引き上げに消極的でした。すでに経済的に豊かになった国から経済発展について口を挟まれるのを警戒しているのでしょう。最悪の場合、京都議定書の時のように、先進国と発展途上国の対立が激化して 2015 年に世界中が合意したパリ協定が空中分解することさえ危惧されます。

脱炭素を一刻も早急に推し進め、地球が暑くなるのをなんとしても 2℃よりも大幅に低く、可能な限り 1.5℃としないと、気象災害や生物の絶滅は甚大な被害となってしまうことは避けられません。だからといって、脱炭素であれば自然エネルギーを湯水のように使っていということにはなりません。太陽光発電、風力発電、蓄電池は発電や蓄電の過程では温室効果ガスを排出しませんが、製造には様々な地下資源を要します。実際、これらの資源価格が値上がっています^{注3)}。世界中で自然エネルギーを使いまくる脱炭素を推進したらあっという間に地下資源を争奪する醜い争いになったり、地下資源の採掘や精製の過程、自然エネルギーの設置で多大な環境破壊を引き起こすことでしょう。

衣食住など生活に必要なレベルを超えて有り余るほどの儲けをすること、そのために経済成長をすることは地球を壊すことであって、『悪』なのです。ですから、収入レベル上位 0.1%や上位 1%の富裕層には今すぐに上位 10%と同じレベルの生活を送らせるように、課税や場合によっては罰則措置を課したらいいと考えます。上位 1%が上位 10%の生活レベルに変更するだけで年間 39 億トンの CO₂ 排出量を減らすことが可能です (0.78 億人 x 50 (74-24) トン CO₂)。これは 2019 年の CO₂ 排出量 330 億トンの 12%に相当します。さらに、上位 10%が中位 40%並みに年間 CO₂ 排出量を 5 トンにすれば、CO₂ 排出量を 148 億トンも減らすことが可能です (7.8 億人 x 19 (24-5) トン CO₂)。2019 年の CO₂ 排出量 330 億トンの 45%に相当する削減です。

タイトルにある経済の大幅縮小というと、未だに否定的なイメージを持つ人がいるかもしれませんが、エネルギーや資源を大量に使わずとも、一人一人が幸せになる方法はいくらでもあることをみんなが気づき、雪崩を切って生活様式を変えましょう。これこそが母なる地球を守るシステムチェンジであると考え、山奥ニートをイラストで紹介しました。例えば、音楽、芸術、演劇、伝統的なお祭り、囲碁・将棋・麻雀、多くのスポーツなどは地球を壊すことはありません。このような活動に熱中して人生を謳歌しながら、経済は大幅に縮小して地球を壊さない、それをみんなで一緒に実践していきましょう。

注

- 1) 『How many Earths would we need if the world's population lived like..』
Global No.1 Business Data Platform "Statista"(May 20, 2021)
<https://www.statista.com/statistics/1053816/ecological-footprint-earths-global-by-country/>
- 2) S. Kartha ほか『The Carbon Inequality Era』Oxfam, Stockholm Environment Institute (2020)
<https://oxfamilibrary.openrepository.com/bitstream/handle/10546/621049/rr-carbon-inequality-era-210920-en.pdf>
- 3) 『カーボンゼロの奔流、コモディティー揺らす 需要急拡大』日本経済新聞 (2021 年 5 月 22 日) <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB146770U1A510C2000000/>

山奥ニートに通じる開拓地のおばあちゃんたちの暮らし

中森 正茂（理事）

私の住む福島県裏磐梯は 1888 年の磐梯山の噴火後に、植林活動や自然の回復力により、300 以上の湖沼群からなる自然豊かな美しい景観が形成され、1950 年に国立公園に指定された土地です。同時に、噴火により荒れ果てた土地を入植した人々が苦労に苦労を重ねて開拓した土地でもあります。そうした開拓者精神を受け継ぐ地元の人たちの暮らしぶりには今回紹介した山奥ニートの経済成長に頼らない生き方に通じるものがたくさんあります。

自活力の高さ

地元のおばあちゃんたちはとにかくたくさん野菜をつくります。たまに訪れると有り余るほどの野菜をいただきます。パーマカルチャーでいうところの「余剰物の分配」。自分だけでなく周囲の人たちをも豊かにしてくれます。季節になると散歩ついでに山菜を採るのが楽しみです。散歩帰りには両手に袋いっぱいのお山菜を持っています。それらの一部は塩漬けされて冬の野菜が採れない時期の食料となります。

地域のつながり

おばあちゃんたちは免許証を持たない人も多く、日常の移動は徒歩か自転車です。余計な物は買わず、旅行にも行かず、ご近所さんとの「お茶っこ」が日課。コミュニケーションが密で困ったことがあればいつでも助け合える間柄です。地域外の人と会う機会が少ないので感染症の心配もほとんどありません。「お茶っこ」のお供には、手作りのお菓子や漬物、煮物などがほとんど。手作りのおかきやカリントウ、ポテトチップスなど、市販のものよりずっと美味しかったです。

自然界への感謝

自然からたくさんの恵みをいただいて暮らしているからなのでしょう、おばあちゃんたちの態度の端々から山々を敬う気持ちが感じられます。また、この地域では五穀豊穡を感謝する「秋祭り」、無病息災を願う「歳の神」の行事が集落ごとに行われ、神様への祈りを捧げます。また、近隣集落では「熊祭り」が行われ、ツキノワグマへの感謝が捧げられます。

まとめ

国立公園という大規模開発から守られ、生物多様性を維持する努力が続けられてきた自然豊かなこの土地での自然の恵みに感謝しながらの暮らしは、環境への負荷も少なく、ある意味最先端の暮らしという側面もあるように思います。コロナ禍にあって多くの人が都会から地方や農村、山間地などに移り住み、おばあちゃんの暮らしぶりに学び、ライフスタイルを変えていくことで、社会全体の環境負荷もまた大きく低減されるのかも知れません。